

びわこ学園だより

Biwako Gakuen Newsletter

vol.
148

2025年(令和7年)
1月発行

もくじ

表紙	1P
新年のご挨拶(びわこ学園 理事長 山崎正策)	2P
二十歳おめでとうございます ~各所の日常~	3P
2024年秋・冬	4~5P
職員history	
④勤続25年以上の職員編	6~7P
びわこTopics	8~11P
ご協力ありがとうございます (R6年8月~R6年11月)	12P

愛と未来をつないでいこう

びかびかみらい



新年のご挨拶



社会福祉法人びわこ学園
理事長 山崎 正策

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和7年の新春を健やかに迎えにいられたこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今年びわこ学園は開設62年という、人間で言えば円熟した老年期にも差し掛かる年となりましたが、現実はそのも言ってもらえない状況です。

まずは、我々を取り巻く重症児者の医療と福祉の環境が大きく変化してきたことです。施設を入所利用されている方々が重度重症化され、また新たに入所利用される方も重度重症で、しかも低年齢の方々が増えてきたことです。いわゆる超重症児者と呼ばれる方々で、対応には様々な医療的ケアが必要になりますし、重介護の方々です。そういう方々をしっかりと受け止めていくためには、医療スタッフをさらに充実させ、レベルを上げると同時に、近隣の救急医療機関との連携をしっかりとっていく必要があります。また、医療的ケアのある重い障害を持っておられる方で、在宅でご家族と一緒に様々な支援を受けながら生活される方に対して、短期入所利用、リハビリ訓練、外来診療など、医療を持つ施設の機能を、さらに活かしていくことが求められてきています。

一方、福祉機能としても我々びわこ学園は、療育活動、暮らしに寄り添う支援を進め、本人一人一人の生活を組み立てていくことを目指して来ました。それがびわこ学園の大きな理念でもある、「この子らを世の光に」や「発達保障」につながるのだと考えてきていますが、今は医療的な処置にとられる時間が多く、また健康的にも不安定なため、以前のような利用者との活動での関わりの時間が少なくなっているのも事実で、日々の安全性は保たれますが、お互いに安心できているかというと、それはなかなか難しくなり、

職員もジレンマに陥っているのではないかと思います。障害を持っておられる方々の専門医療福祉機関として、様々なニーズに答えていくことは、現在、様々な職種職員の確保の困難さと相まって、並大抵のものではありません。また職員の確保が先々改善してくるのかということ、それも期待できそうでもありません。

びわこ学園一丸となって頑張る、新しい知恵と工夫を出し合いながら乗り越えていく、等々シュプレヒコールは色々出せますが、具体的にはどうでしょうか。過去のびわこ学園が苦境時に乗り越えられてきたのは、やはり利用者から授かった力ではなかったでしょうか。

利用者と信頼関係を紡ぐために、職員がこちらから何の偏見も持たずに、一人の人間として相対して取り組んできたこと、そして、利用者の生活の質を担保していくために、職員同士の真摯な信頼関係を築いてきたことが、大きな原動力になってきたのではないかと思います。重い障害者の方々と長い療育実践の中で、見えてきたことのひとつはこのことであり、それがびわこ学園の一致団結という力に今後も繋がってほしいものです。

今後は、我々の社会構造も、また障害者医療福祉の環境も、大きく変わっていくことが予想されます。

びわこ学園は、今までに培ってきた基本理念に基づく支援の仕方、さらにすべての人との信頼関係作りの基本的なあり方などを真摯に学びながら、この子らとともに光り輝くことを目指して、様々な課題に挑戦していきたいと考えているところです。

皆様方のさらなるご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

三十歳おめでとうございます

～新たな出発を祝して～

令和7年4月1日までに二十歳になられる皆様をご紹介させていただきますとともに「二十歳おめでとう」を申し上げます。
今後一層充実した日々を過ごされることを願っています。

びわこ学園
医療福祉センター
草津

久保田珠名さん



びわこ学園障害者支援センター



山本琉聖さん
(えがお)



垣立麻衣さん
(えがお)



青木玲奈さん
(たいよう)



市川ななほさん
(かなえ)



鈴木日奈子さん
(かなえ)



小寺 陽さん
(ピアース)

各所の日常～2024年秋～

びわこ学園医療福祉センター野洲

秋の運動会の
一コマ(第1病棟)



秋のスポーツ大会開催!
ボーリングを楽しみました!
(第2病棟)



学園祭にて書道パフォーマンスの
お披露目(第3病棟)



びわこ学園障害者支援センター

ミシガンクルージング(かなえ)

お天気もよく
いよいよ乗船



風が気持ちいい～



楽しい時間は
あっという間



びわこ学園医療福祉センター草津



スパイダーマンと一緒に
秋祭りを楽しんだよ



ハロウィンを
楽しんだよ



芋ほりしたよ
～大きな大きなお芋の収穫～



知的障害児者地域生活支援センター



ひまわりはうすで出品した商品
(ロウで作成した「サシェ」)たち



受付もがんばってくれています



ティラノサウルスと
いっしょに

④勤続25年を超えた職員編

(令和6年度 岡崎賞受賞職員)

25年前、就職当時の配属は移転前のセンター野洲でした。当時は初めて知ることばかりでたくさんの迷惑をかけながらも学んだことが今になって、何より一番の自分の中心になっているように思います。

これまで多くのことを教えてもらいましたが、なぜか印象に残っていることは「サボりかた」でした。今思えばこれは「適度に肩の力を抜くことの大切さ」かなと思います。ずっと力が入りっぱなしだと疲れてしまいますよね。

これまで多くの利用者さん、職員と出会い、思いや考えを知っていくことができました。そこで学び繋いできたことが、今の自分の支えであり仕事ができよかったと思えることです。

これからの抱負、目標は、体に気を付けてみんなと楽しく過ごせたらいいかなと考えています。



林 荒野・生活支援員・26年目
びわこ学園医療福祉センター草津



就職当初の思い出は、就職して数ヶ月経っているにもかかわらず、数名の職員に実習生だと思われていたことです。自分の未熟さを実感したとともに早く職員と認めてもらえるよう成長しなければという思いにもなりました。

その中で、印象に残っているエピソードとして、病棟職員の前では元気に声を出していた利用者さん。関わりが少なかった私がホームに入ると急に黙り込んでしまって、目をそらされていましたが、担当になってからは、顔を見ると声を出して呼んでもらえるようになったり、隣りに座ると肩を組んでくれるほど距離が縮まるなど、やりがいを感じたひとときでした。

これからも身体に気をつけながら、日々の仕事に向き合いたいと思います。

藤井宏美・作業療法士・26年目・リハビリ課係長
びわこ学園医療福祉センター草津



野洲市の南桜にあった第二びわこ学園は、外来・リハ室はプレハブ、管理棟のトイレは出入り口が男女共有で簡易な敷居で仕切られているのみ、一年中窓が開いていて冬場は極寒のトイレでした。西棟の職員用トイレも利用者さんが「うーうー」声を出しながら排泄している壁を隔てた隣だったので、どちらのトイレに行くべきか悩んだものでした。

最初の3年ほどは常に退職を考えていましたが、エネルギーに溢れた利用者さんと個性的な職員に囲まれ、野洲での20年間は私にとってかけがえのないものになりました。湖水浴、運動会、自立に向けての宿泊棟宿泊、コンビニ外出、畑、散歩、プール、焚火に山登り、シイタケの菌打ちたくさんのごことを利用者さんと経験し、語りつくすことができません。

これからも常に「そのときできることをできるだけ」頑張ります。



加納雪絵・作業療法士・26年目
びわこ学園医療福祉センター草津



今年度、25年勤続ということで、「岡崎賞」を頂きました。びわこ学園との出会いは、学生時代に友人に誘われて就職見学に来たことから始まりました。見学は、びわこ学園を知らずに友人任せで来園し、当時のセンター野洲リハ課長の楽しいお話を聞いたことを覚えています。

就職してからは、日々しんどさもありましたが、1年1年楽しかった出来事が「勤続」を支えてくれたように思います。利用者さんとの笑顔を共有したいという思いと、利用者さんから学ばせて頂いた25年間は宝物です。これからも、さらに実現できるように、利用者さんのリズムに合わせた関わりを、仕事を続けていきたいと思えます。

阿部真由子・作業療法士・26年目
びわこ学園医療福祉センター野洲

びわこ学園では勤続25年を迎えた職員に対し、永年勤続賞としてびわこ学園の発展に生涯をかけ尽力された初代園長岡崎英彦先生の遺徳を記念した「岡崎賞」を贈呈しています。
ここでは、本年度岡崎賞を受賞した職員の投稿をお届けします。

「京都に行くわ！」と友人に話し、びわこ学園から送られてきた書類に「滋賀」と書いてあるのを見て混乱したあの日から26年が経ち、このような賞をいただけるまで育てて下さった利用者さんをはじめ、多くの方に心から感謝致します。

この間、公私ともに様々なことがあり、「いのち」について考える機会が何度もありました。お別れは悲しいものですが、それだけではない思いをここびわこ学園では感じることが出来ました。それはすごく「有難い」ことなのだと思います。

「有難い」とは「有ることが難しい」ということ。何気ない当たり前のような日々でさえも、実は「有ることが難しい」のだということも利用者さんに教えてもらいました。そんな日々「ありがとう」（有難う）と感謝し伝えることができる人になりたいものです。

残りの人生も「いのち」に感謝しながら歩んでいきたいと思います。



吉田昌佐美・看護師・26年目・看護部長
びわこ学園医療福祉センター野洲



野並弘恵・生活支援員・26年目
びわこ学園医療福祉センター野洲

「今年度岡崎賞を受賞する」と聞いた時に、臨時職員として学園で働き始めた時に先輩職員が受賞したのを思い出しました。その時はすごい経験を経てきた先輩だなと思っていたのに、いざ自分が受賞すると入職して時間が経ったことに驚き、いろんな経験を積めてきたかなと不安を感じました。

入職して以降センター草津、センター野洲と働き、各病棟の利用者さんに久しぶりに会っても覚えていてくれることに喜びを感じます。その中でも利用者の方々と過ごしながらか、加齢を実感してきました。日々のかかわりの中で利用者とのいろんな別れや出会いがあり、どのような生活を支援できるかと改めてたくさん事を考えることがたくさんありました。今後も利用者にとって日々の生活とはどういうものなのかを考えながらか、笑顔を見せて頂けるようにかかわっていければと思います。



この度は岡崎賞を頂きありがとうございます。気がつけば25年。入所に14年、地域で11年。最初の配属先は、第二びわこ学園の西棟という医療的ケアの必要な方の多くおられる病棟でした。建物は老朽化していましたが、日々の暮らしの中で利用者の持っている力を僅かでも活かせる工夫や自信につなげる取り組みなど先輩方の熱い思いを感じました。また利用者を側で優しく見守ったり、冗談を言うなど家庭的で温かい雰囲気も印象的でした。先輩方の利用者に向き合う姿勢や関わり方に自分もそんな風になれたら、と思いつながら仕事を続けてきました。

入所でのそうした経験が利用者支援の原点となり今に活かされています。びわこ学園で感じた魅力ややりがいを伝えることがこれからの役割であり、お返しになると感じています。



山口俊一・生活支援員・26年目・支援課課長
知的障害児者地域生活支援センター



川島 洋・生活支援員・26年目・通所課課長
びわこ学園障害者支援センター

びわこ学園に初めて来たのは非常勤職員の採用面接でした。見学中にプレイルームからあいさつの歌が聞こえてきて「歌なんて無理！やっていけるのだろうか？」と思ったのが第一印象でした。その際、バイト先の先輩に相談すると、元びわこ学園職員であることが判明！し、背中を押していただきました。

その後、正規職員になり、センター草津で14年、障害者支援センターで11年。今、実感しているのは、どこで暮らしていても、目の前にいる利用者の方を「本人さんはどう思っているのだろうか」と悩みながら支援することは変わらないこと。そして、たくさんの人に重症心身障害者のこと、びわこ学園のことを知ってもらう必要があることです。

「たいよう」に異動後は、琵琶湖沿いを自転車通勤できる最高の環境で勤務しています。初めてびわこ学園に来た時に思った「びわこ学園なのに琵琶湖が見えない問題」は個人的に解決できました。

第43回びわこ学園実践研究発表会報告

令和6年12月14日（土）オンライン開催 法人事務局人財育成部

2024年度びわこ学園実践研究発表会では、びわこ学園の61年目からの歩みが始まるにあたり、テーマを「その人らしさが輝く、人生への支援～びわこ学園61年目からの歩み～」とし、改めて創立時の理念にある「発達保障」について学ぶ機会として開催しました。

今年度は、オンラインとびわこ学園医療福祉センター野洲会場のハイブリッドでの開催となりました。参加者は、びわこ学園職員やご家族等を合わせ参加者は212人となりました。また宮城県から鹿児島県まで県内外から多くの方にご参加いただきました。

前半の「講演の部」については、垂髪あかり氏（鳴門教育大学大学院 高度学校教育実践専攻教育系幼児教育コース 准教授）に「いま、もう一度、発達保障の原点に立ち返り見えてくるもの～60年前にタイムスリップして、糸賀一雄、岡崎英彦と対話する試み」をテーマにご講演をいただきました。

私たちは今、慢性的な職員不足や日々の多忙さの中にあり、目の前のことに追われ、利用者や生活について話し合う時間をもつことが難しくなっています。

今回のご講演では、60年前にも糸賀先生、岡崎先生も、今の私たちと同じように悩みや葛藤を抱え、それらとどう向き合ってこられたのか、発達保障の

原点に立ち返り、糸賀先生、岡崎先生の言葉に触れながら、「糸賀先生、岡崎先生へ『聴いてください、私の体験や思いを。』（ワークシート）」のテーマ毎に、私たちひとり一人の体験や思いを書き言葉にし、対話することを通じて、障害の重い人の「ヨコへの発達」「横（横軸）の発達」の理解や「共に生きる」ことの意味や理解について、より身近に感じながら、学び、考える時間となりました。



「講演の部」講師 垂髪氏

後半の「実践報告の部」については、びわこ学園医療福祉センター草津・野洲、びわこ学園障害者支援センター（えがお）および知的障害児者地域生活支援センター（さくらはうす）から実践報告しました。

報告1 びわこ学園医療福祉センター草津から「精神的不安定さが呼吸状態の悪化を招く利用者の声門閉鎖術施行に向けた看護援助の実際」をテーマに、意思疎通が図れる利用者2人の声門閉鎖術施行に向け、その人の発達段階や性格、生活背景を踏まえて、それぞれの利用者がイメージしやすい方法で説明し理解を得ることや手術後の生活を共有することで、本人の精神的安定を図り手術に臨んだ経過について報告しました。



報告2 びわこ学園医療福祉センター野洲から「高齢の重症心身障害者に対し最後まで『食べること』を支援した一例」をテーマに、“人との関

わりや食べること”が好きだった終末期を迎えた高齢のAさんの永眠まで3年間を7期に分け、医師、作業療法士、病棟の他職種で進めた支援についての報告をしました。

報告3 びわこ学園障害者支援センター 重症心身障害者通所施設「えがお」から「重症心身障害者における日中活動の持続性について～9年間取り組んでいるおやつ活動の実際」をテーマに、人や場所など環境変化が筋緊張や嘔吐につながるBさんのおやつ活動を通しての変化や地域との交流など、通所施設における日中活動の意味について報告しました。

報告4 知的障害児者地域生活支援センター 生活介護事業所「さくらはうす」から「強度行動障害を呈するC氏が持っている力を発揮するための環境整理」をテーマに、行動障害を呈するCさんの事例を通し、アセスメントにより行動の動機や意図を理解し、環境整備や支援を言語化し、日々の日課に活かすことでCさんの自律する姿について報告しました。

4つの報告後、参加者から寄せられた質問に各発表者が回答しながら取り組んだ実践や課題を共有しました。

特定技能外国人の皆さんを受け入れて

びわこ学園医療福祉センター野洲 生活支援部長／西田幸夫

フィリピンの特定技能職員を迎え入れてから半年以上が経過し、1病棟のクレアさん、2病棟のジェインさん、3病棟のマリアさんの3名がそれぞれ活躍しています。彼女たちは日本語や介護技術を順調に習得しており、その積極的に学ぼうとする姿勢が素晴らしいですし、特に、挨拶の際に立ち止まり、相手を見て微笑みながら「こんにちは」と伝える姿には、私たちも学ぶべき点があると感じます。皆さんは、きちんと挨拶できていますか？

10月からは変則業務にも挑戦しています。職員の少ない時間帯に対応する中で新たな課題もみえてきましたが、病棟職員と協力しながら丁寧に解決に取り組んでいます。この取り組みは、特定技能職員だけでなく、新たに加わるすべての職員がスムーズかつミスなく業務に対応できる体制づくりにつながるのではないかと期待しています。

南国から来た彼女たちにとっても、日本の夏はとて「暑かった」そうです。ちょうど今は、彼女たちが経験したことのない季節「冬」を迎えました。日本の寒さをどう感じているのでしょうか。12月の日本語検定の試験（N3）も終わり、少しホッとしているところだと思います。センター野洲で見かけた際には、気軽に声をかけてあげてください。そして、滋賀県のおすすめスポットや美味しいもの（お店）を教えてください。



左からクレアさん、ジェインさん、マリアさん
手に持っているのは滋賀県知事からいただいたメッセージカードです。特定技能職員の実践発表会に参加し、いただきました。

Welcome !! ミャンマーからびわこの仲間たち 2025.4

びわこ学園医療福祉センター野洲 生活支援部長／西田幸夫

1. フィリピンに続くミャンマーからの特定技能職員採用について

今年度のフィリピンからの特定技能職員の採用に続き、来年度も新たな職員を迎える予定です。母国が同じ職員同士だと日本語の上達が遅くなる傾向があるため、日本語と文法が近い国からの採用が効果的であることを考慮し、今回はミャンマーからの採用を決定しました。法人事務局 人材育成部長の南方とミャンマーのヤンゴン市を訪問し、面接を実施しました。



面接は、対面方式に加え、日本とオンラインで接続して実施しました。面接に臨んだミャンマーの候補者たちは、日本で働き新しい未来を築きたいという強い意欲を持っており、18人の候補者の中から6人を絞る難しさを実感しました。来春、センター草津と野洲にそれぞれ3名ずつ着任する予定です。また、面接後には日本語学校での授業風景や寮生活の様子も見学し、日本語を真剣に学ぶ学生たちの姿を見ることができました。

2. 特定技能職員の受け入れの影響と今後の期待

今回の採用により、センター草津では初めての特定技能職員を迎え、センター野洲では今年度に続き2年目の受け入れとなります。すでに来日したフィリピン出身の3名は各病棟で変則業務にも取り組み始めており、真剣な働きぶりや向上心は周囲の職員にも良い影響を与えています。

日本の福祉業界は慢性的な人手不足という課題を抱えています。やる気と熱意を持つ職員を迎えることのメリットは非常に大きいと感じています。新しい視点や文化交流を通じて、多様性が高まり、現場に新たな刺激が生まれることが期待されます。それは、現場の職員が丁寧な指導を行い、生活サポートを含めた受け入れ体制が整いつつあるからこそ実現できることであり、多くの職員の協力によって支えられていることに深く感謝しています。

来年度には新たな職員がびわこ学園に加わり、さらなる活気がもたらされることを非常に楽しみにしています。



「ちょこらんど」の6年のあしあと 後編

びわこ学園障害者支援センター・多機能型事業所ちょこらんど 看護師/多久島尚美

多機能型事業所「ちょこらんど」は開所からすでに6年が経過しました。

児童発達支援を受けていた年少の子どもたちが成長し放課後等デイサービスに通う日々の過ごしをご紹介します。

「ちょこらんど」はお風呂に入るお子さんが多いため遠方への外出はなかなか難しいですが、近くの公園や神社への散歩、季節の行事を大切にしながら楽しんでいます。

学校帰りの放課後等デイサービスでは、お風呂でゆったり過ごして、学校で頑張ってきた疲れを癒し、明日からまた元気に登校してもらえるように支援しています。

このように、子どもたちの命と安全を守りながら、個々のチカラに合わせた温かな療育活動と医療的ケア支援を、多職種で協力し合って楽しい経験となるように努力しています。

これまで多くの方々に支えられ、保育士や理学療法士、作業療法士、音楽療法士やびわこ学園の心理判定員、嘱託医師の先生、実習に来られた学生さん、市の相談員さんなど、たくさんの方々にお世話になり、ここまで来ることができました。



「ちょこらんど」に通っている医療的ケアが必要なお子さんたちが、何より登園を楽しみにしてくれることを期待しつつ、今後もスタッフの（時には重すぎる！？）愛を受けて、お友だちの中で成長され、地域の幼稚園や保育園、小学校、特別支援学校、生活介護事業所などへと羽ばたいていかれることを今後も応援しています。

大津市基幹相談調整センターについて

知的障害児者地域生活支援センター 副所長
大津市基幹相談調整センター担当/松岡 啓太



基幹相談支援センターとは、障害福祉分野において地域の相談支援の中核的な役割を担う相談機関です。一般の相談支援事業所は主として障害福祉サービスを利用する方に対して相談支援を提供しますが、基幹相談支援センターでは、障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の相談拠点として様々な相談や情報提供などの支援を総合的に行う機関です。障害のある

方やそのご家族、地域の相談支援機関、福祉サービス事業所などの関係機関からの様々な相談に、専門の相談員が応じます。また、地域の方や関係機関と連携し、障害のある方を地域全体で支える地域づくりに取り組みます。

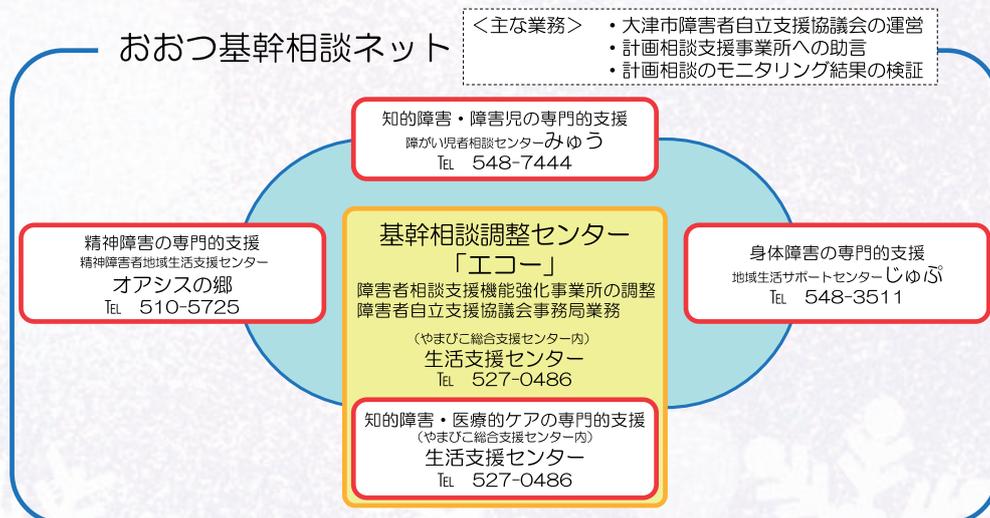
障害者総合支援法の改正で令和6年4月から基幹相談支援センターの設置が市区町村の努力義務となるのに伴い、大津市では令和4年度から生活支援センターをはじめとする4か所の相談支援事業所に相談支援機能強化事業を委託して、基幹相談支援センターの業務を連携して分担することとしました。



さらに令和5年度からは、4つの相談支援機能強化事業所の調整と自立支援協議会の事務局業務を「基幹相談調整センター業務」として別途整理し、びわこ学園に委託。大津市では基幹相談調整センター、相談支援機能強化事業所をすべてあわせて、基幹相談「支援」センター業務として位置づけて対応することとしました。

現在、大津市基幹相談調整センターは事務所を生活支援センター内に設置して、主任相談支援専門員2人と相談支援専門員1名の3人が主なスタッフとして、大津市障害者自立支援協議会の事務局運営、医療的ケアの方や知的障害の方に対する専門相談、大津市内の相談支援事業所へのフォローアップの業務などを地域の様々な機関と連携しながら日々取り組んでいます。

大津センターの理念でもある「人権保障に例外を作らず、ノーマライゼーションを推進して、どんなに障害が重くても、いのちを輝かせる」地域づくりを目指して、基幹相談支援センターはこれからも関係機関の皆さまと共に歩んでいきたいと思えます。



ご協力ありがとうございます

令和6年8月～令和6年11月（敬称略）

寄付金

（寄付金についてはいただいた方の御名前または団体名のみご報告させていただきます。）

（法人）

白石 剛

（びわこ学園医療福祉センター野洲）

武藤一美／はもりべ事務局 小原有貴

物品の寄付

（びわこ学園医療福祉センター草津）

その他…パナソニックアプライアンスユニオン
草津地区協議会／パナソニックエアコン・
コールドチェーンユニオン空質空調支部／
南笠東学区社会福祉協議会 会長 清水和廣／小寺理恵

（びわこ学園医療福祉センター野洲）

日用品…今井和子／野洲更生保護女性会／
（社福）野洲市社会福祉協議会／
白井郁子／元木隆治・恭子

（びわこ学園障害者支援センター）

国際ソロプチミスト長浜／他 18件の寄付物品を
いただきました。

ボランティアのみなさん

（びわこ学園医療福祉センター草津）

天理教江西支部／山科たんぽぽ／すずらん／勝島三男／勝島百合子／尾浦与子／御子芝貴美子／宇野郁子／
坂口博昭／BusuClover／キラリ☆ウインドポップス／みみすまバンド／アロマエンジェル／
パナソニックアプライアンスユニオン草津地区協議会／パナソニックエアコン・コールドチェーンユニオン空質空調支部／
華頂看護専門学校1年生の皆様／加藤常満／西浦正一／船木篤栄／香川典代／元井芳嗣／三宅美恵子／
枡谷美代子／田辺久子／向吉昌代／加藤美由紀／前田五月／西尾悦子／田中智子／西川千晴／奥田多恵／
池田はるか／田中ゆかり／壺井博美／中路友未／伏見真奈美／有田智也／吉田利菜

（びわこ学園医療福祉センター野洲）

近江金田教会／K-Iクラブ／更生保護女性会／天理教婦人会／野洲音訳グループさえずり／ニレトミ会／
野洲赤十字奉仕団／大津友の会／レイカディア大学園芸科45期A.B／レイカディア大学園芸科OB／
水島たづ子／レイカ野洲／ふなっこ&あゆっこグループ／野洲市YBCスポーツ少年団／コカリナ胡桃／
秋末文孝／秋末道子／安藤 真紀／磯 春樹／上田順子／田中規久子／林 政子／細川久子／加藤常満／
川端しづ子／辰市由香／左部真千恵／東郷 勇／中富恵子／堀田千景／森 紳司／元木恭子／元木隆治／
木村真由美／枡谷幸一／枡谷美代子／水津さゆり／大西百華／田中和子／水流寿子／飯田倫子／伊藤明日香／
横山ひかり／葛籠悠／奥村純大／小林俊輝／松本菜也／田中漣華／内藤紀代子

（びわこ学園障害者支援センター）

笠縫東学区更生保護女性会 卯田美千代／玉津学区社会福祉協議会／竹楽の杜クラブ 今江・鳥毛・木村

その他の協力団体・会員

びわこ学園後援会 びわこ学園事業や両医療福祉センターイベントへの出店・助成等

【ご寄付贈呈式報告】

（びわこ学園医療福祉センター草津）

2024年10月27日に開催した秋祭りで利用者さ
んの楽しみとなる物品等を贈呈いただきました。



（写真右）

南笠東学区社会福祉協議会
会長 清水和廣様代理 副会長 大西 繁様

（写真右隣）

パナソニックアプライアンスユニオン
草津地区協議会様／
パナソニックエアコン・
コールドチェーンユニオン
空質空調支部様



社会福祉法人
びわこ学園

発行責任者 理事長 山崎 正策
編集責任者 法人事務局 田處 浩吉
印刷 近江印刷株式会社

法人事務局
びわこ学園医療福祉センター草津
びわこ学園医療福祉センター野洲
知的障害児者地域生活支援センター
びわこ学園障害者支援センター
びわこ学園長浜診療所

TEL 077-587-1144 〒520-2321 野洲市北桜978-2
TEL 077-566-0701 〒525-0072 草津市笠山八丁目3-113
TEL 077-587-1144 〒520-2321 野洲市北桜978-2
TEL 077-527-0494 〒520-0802 大津市馬場二丁目13-50
TEL 077-585-8040 〒524-0014 守山市石田町707
TEL 0749-53-2771 〒526-0845 長浜市小堀町122番1